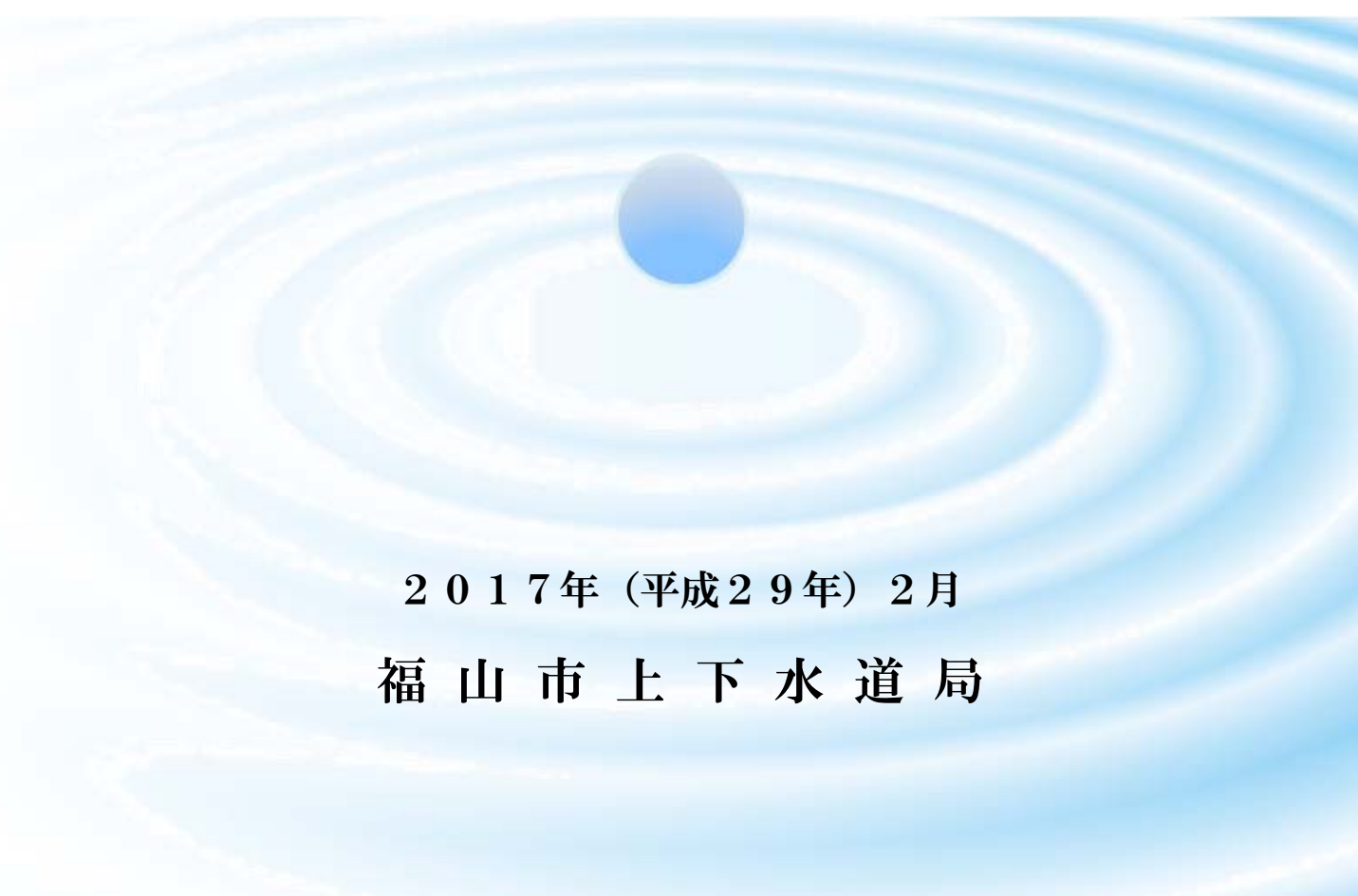


福山市 上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）

2017年度～2026年度
（平成29年度～平成38年度）



2017年（平成29年）2月
福山市上下水道局

－ はじめに －

私たちのまち福山は、昨年7月に市制施行100周年という大きな節目を迎えました。1916年（大正5年）に県内で4番目、人口約3万人、面積約5.8k㎡で誕生し、その後、数次の合併を重ね、現在〈2015年度末〉では人口約47万人、面積518k㎡を有する広島県東部の中核都市として発展しています。

水道事業は、建設財源である国の補助金を確保するために必要な条件であった市制施行後に着手し、1925年（大正14年）に給水を開始しました。以来90年余りの間、安心・安全な水を供給し続け、現在〈2015年度末〉では給水人口約45万人、給水人口普及率95.7%となっています。

工業用水道事業は、1958年（昭和33年）に給水を開始し、工業用水の需要が飛躍的に向上した高度経済成長期を経て、現在〈2015年度末〉では製造業を中心に27か所の需要者に年間約8,000万㎡を配水しています。

公共下水道事業は、1952年度（昭和27年度）から戦災復興事業に併せて着手し、汚水整備や浸水対策など積極的・重点的に取り組み、現在〈2015年度末〉では公共下水道人口普及率71.0%、雨水対策整備率52.7%となっています。

これまで、水道事業については、2009年（平成21年）に「福山市水道事業中長期ビジョン」を、下水道事業については、2013年（平成25年）に「福山市公共下水道事業経営計画」を策定し、公営企業として中長期的視点に立った計画的・効率的な施設整備を行うとともに、行財政改革を積極的に推進するなど、持続可能な経営基盤の確立や市民サービスの維持向上に取り組んできました。

しかしながら、近年の不安定な景気動向や節水機器の普及、環境に対する市民意識の向上などにより、水需要は、周辺4町との合併をピークに年々減少し、今後は人口減少等の要因も加わり、収益の伸びは見込めないものと予測しています。一方では、老朽化した上下水道施設の更新や耐震化に多額の事業費が必要になります。また、知識と技術を有する職員が大量退職するなど、事業を取り巻く経営環境は大変厳しくなっています。

そうした状況の中、上下水道局では、国が今後の上下水道事業が取り組むべき事項や方策を示した「新水道ビジョン」、「新下水道ビジョン」との整合を図るとともに、「公営企業の経営に当たっての留意事項について」も踏まえる中で、水道事業や工業用水道事業、下水道事業が一体となった「上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）」を策定しました。

水道や工業用水道、下水道は、市民生活や社会経済活動を支える重要なライフラインであることから、これからも、将来にわたって持続可能な事業経営を行い、市民に信頼される安心・安全でしなやかな^(※1)上下水道事業を目指していきます。

2017年（平成29年）2月

☆ 本文中の上下水道事業とは、福山市上下水道局で所管する水道事業・工業用水道事業・下水道事業の3事業の総称として使用しています。

※1 しなやか … 災害等の危機事象に対して、被災を最小限にとどめる強い上下水道施設とすること。また、施設が被災した場合にあっても、迅速に復旧できる体制などを備えていること。

はじめに

第1章	策定の趣旨	1
1-1	策定の経緯	1
1-2	位置づけ	2
1-3	計画期間	2
1-4	ビジョンの体系図	3
第2章	上下水道事業の役割とこれまでのあゆみ	4
2-1	水道事業の役割	4
2-2	工業用水道事業の役割	4
2-3	下水道事業の役割	5
2-4	水道事業のあゆみ	6
(1)	これまでのあゆみ	6
(2)	主要施設の位置図	7
2-5	工業用水道事業のあゆみ	8
(1)	これまでのあゆみ	8
(2)	主要施設の位置図	9
2-6	下水道事業のあゆみ	10
(1)	これまでのあゆみ	10
(2)	主要施設の位置図	11
2-7	水道・工業用水道・下水道の年表（略年表）	12
第3章	上下水道事業の現状と取り組むべき課題	13
3-1	福山市の現状	13
(1)	広域的な特性	13
(2)	社会状況	13
(3)	経済環境	14
(4)	市民意識・ニーズ（今後、まちづくりを進めていく上で重要な取組）	14
3-2	人口減少社会の到来と水需要構造の変化	15
(1)	本市における人口の将来展望	15
(2)	水需要の動向	15
3-3	安心・安全な水の供給，施設の更新や災害対応	18
(1)	水質の安全性・信頼性	18
(2)	施設の更新や耐震化	18
(3)	災害対応	22
3-4	環境への配慮	23
(1)	環境対策	23
(2)	水環境の向上	23
3-5	市民満足度の向上に向けて	25
(1)	積極的な情報発信と市民ニーズの把握	25
(2)	利用者へのサービスの向上	25
3-6	事業経営の健全化	26
(1)	厳しさを増す経営環境	26
(2)	水道料金，工業用水道料金，下水道使用料	28
(3)	経営状況の把握と分析	30
(4)	定員管理・給与の適正化	30
(5)	有収率の向上対策	31
(6)	アセットマネジメント（資産管理）手法の活用	32
(7)	人材育成・技術継承の取組	33
(8)	官民連携・広域化等の取組	34

第4章	上下水道事業のめざす姿，ビジョンの基本方針，施策体系	35
------------	-----------------------------------	-----------

第5章	ビジョンの基本方針に基づく具体的な取組	37
------------	----------------------------	-----------

5-1	目標の設定（10年後の主要指標）	37
5-2	取組項目及び実施事業一覧	39
5-3	取組項目ごとの目標・取組方針	43

第6章	経営戦略（投資・財政計画）	63
------------	----------------------	-----------

6-1	経営戦略策定の趣旨・位置づけ	63
6-2	水道事業の将来の事業環境の見込み	65
	（1）給水人口・給水戸数の予測	65
	（2）水需要の予測（配水量・有収水量）	66
	（3）水道料金収入の予測	67
	（4）水道施設の見通し（老朽度，余剰能力）	67
	（5）組織・給与・職員数の見通し（3事業共通）	69
6-3	工業用水道事業の将来の事業環境の見込み	70
	（1）水需要の予測	70
	（2）工業用水道料金収入の予測	70
	（3）工業用水道施設の見通し（老朽度，余剰能力）	71
	（4）組織の見通し	71
6-4	下水道事業の将来の事業環境の見込み	72
	（1）処理区域内人口・排水戸数の予測	72
	（2）水需要の予測（汚水処理水量・有収水量）	73
	（3）下水道使用料収入の予測	74
	（4）下水道施設の見通し（老朽度，余剰能力）	74
	（5）組織の見通し	75
6-5	効率化・経営健全化のための取組方針	76
	（1）これまでの主な取組と内容	76
	（2）今後の取組方針	77
6-6	投資・財源の試算の考え方	78
	（1）財源	78
	（2）投資	79
	（3）投資以外の経費	81
6-7	投資・財政計画	82
	（1）水道事業の投資・財政計画	82
	（2）水道事業の見通し	83
	（3）工業用水道事業の投資・財政計画	85
	（4）工業用水道事業の見通し	85
	（5）下水道事業の投資・財政計画	87
	（6）下水道事業の見通し	87
6-8	投資・財政計画に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要	89
6-9	計画の進捗管理	89

第7章	進捗管理と点検・見直し	93
------------	--------------------	-----------

福山近代水道の始まりの地 ～旧佐波浄水場～

旧佐波浄水場 配水池正門
※国の登録有形文化財(建造物)



記念額(配水池入口)

あんの しんいち 阿武 信一 初代福山市長のきこう 揮毫によるふしやちゆうや 「不舎晝夜」

「不舎晝夜」とは …

昼も夜も断水がないことを意味するとともに、上水道建設の苦勞、喜び、福山の永遠の発展、市民が幸福に暮らすことへの思いが込められている。

近代水道の創設に当たり、「水道市長」とも呼ばれたあんの 阿武市長が、将来にわたる強い意志を示したもので、福山近代水道の原点となるもの。

※「孟子」の一節「源泉混混不舎晝夜」から引用

(意味)「水はその源からこんこんと湧き出て、昼も夜も休む時がない」

佐波浄水場の歴史

1921年(大正10年)	3月	水道布設認可(内務大臣)
1923年(大正12年)	1月	佐波浄水場工事開始
1925年(大正14年)	9月	佐波浄水場工事完成
1925年(大正14年)	11月	給水開始(通水式)
1977年(昭和52年)	10月	佐波浄水場休止
1989年(平成元年)	4月	佐波浄水場廃止
2013年(平成25年)	3月	国の登録有形文化財(建造物)に登録

1-1 策定の経緯

上下水道局では、これまで市政の基本方針のもと、「福山市水道事業中長期ビジョン」や「福山市公共下水道事業経営計画」を策定し、公共下水道事業への地方公営企業法の全部適用に併せて実施した水道局と建設局下水道部との組織統合（2012年4月）をはじめ、水道料金や下水道使用料の見直し（2015年3月）、既存の資産を総合的に管理することができるアセットマネジメント（資産管理）手法の導入（2015年11月）など持続可能な経営基盤の確立や市民サービスの維持向上に取り組んできました。

しかしながら、上下水道事業を取り巻く経営環境は、不安定な景気動向や節水機器の普及に加え、今後の人口減少の要因などから、水需要の低迷により収益が減少する一方で、老朽化した施設の更新・耐震化に対する投資が増大するなど、厳しい状況が続くものと見込んでいます。

そうした中であっても、市民生活や社会経済活動に欠くことのできないライフラインである水道や工業用下水道、下水道は、質の高い上下水道サービスを提供し続け、心の豊かさが実感できるまちの実現に貢献する使命があることから、将来にわたって持続可能な事業経営を行い、市民に信頼される安心・安全でしなやかな上下水道事業を確立しなければなりません。

福山市では、市制施行100周年後の新たなまちづくりに向けて、「ひとが輝き 夢をはぐくむ 未来創造都市 ～ばらのまち 福山～」を将来都市像とする「第五次福山市総合計画」を策定し、将来にわたって発展し続けるまちの実現に向けた取組をスタートさせます。

上下水道局においても、質の高い上下水道サービスを提供し続け、心の豊かさが実感できるまちの実現に貢献するという使命のもと、経営資源である「ヒト・モノ・カネ・情報」（4つの視点）の全体を最適化するため、水道事業や工業用下水道事業、下水道事業が目指す将来像や目標を示す「ビジョン」と「経営戦略（投資・財政計画）」を合わせた、今後10年間の中長期的な経営の基本計画である『上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）』を策定しました。



1-2 位置づけ

「上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）」は、本市の水道事業や工業用水道事業、下水道事業共通の「基本理念」（上下水道局の使命）や「理想の姿」（上下水道局のビジョン）を明らかにし、その実現に向けた「基本方針：4本の柱」に基づき、重点的かつ計画的・効率的に取り組む「16の施策：39の取組項目」を取りまとめています。

また、本市の最上位計画である「第五次福山市総合計画」や国が今後の上下水道事業が取り組むべき事項や方策を示した「新水道ビジョン」、「新下水道ビジョン」との整合を図るとともに、「公営企業の経営に当たっての留意事項について」において、策定が求められている『経営戦略』に位置づけるものです。

「上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）」の策定に当たっては、「福山市上下水道事業経営審議会」やパブリックコメントの実施により、市民などからの幅広い専門的な知識や意見も反映したものとしています。

1-3 計画期間

- ◇ 2017年度（平成29年度）から2026年度（平成38年度）までの10年間
- ◇ 「上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）」に掲げた「基本方針：4本の柱」や「16の施策：39の取組項目」の実効性をあげるため、「上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）実施計画」を策定します。
 - ・前期5年間 [2017年度（平成29年度）～2021年度（平成33年度）]
 - ・後期5年間 [2022年度（平成34年度）～2026年度（平成38年度）]に分けて進捗管理を行い、達成度の検証を行う中で、適宜事業内容の見直しを行います。

- 新水道ビジョン〔厚生労働省：2013年（平成25年）3月策定〕
 - 水道を取り巻く環境の大きな変化に対応するため、これまでの「水道ビジョン」を見直し、50年後、100年後の将来を見据え、水道の理想像を明示するとともに、取り組みの目指すべき方向性やその実現方策、関係者の役割分担を提示したもの。
- 新下水道ビジョン〔国土交通省：2014年（平成26年）7月策定〕
 - 下水道事業の現状と課題を客観的かつ的確に捉え、さらに社会経済情勢の変化を見通した上で、下水道の「使命」を改めて見直し、「使命」を達成するための長期的な「ビジョン（未来像）」を描き、「ビジョン（未来像）」を達成するための中期的な目標と施策を明確化したもの。
- 公営企業の経営に当たっての留意事項について〔総務省：2014年（平成26年）8月通知〕
 - 総務省が各公営企業に対し計画的な経営を推進していくに当たり要請したもので、現下の社会経済情勢を踏まえながら、中長期を見据えた「経営戦略」（投資等の支出と財源の均衡を図るとともに効率化や経営健全化の取組について記載した経営の基本計画）を策定することを推進している。

1-4 ビジョンの体系図

